

## ランチョンセミナー (LS 3-1)



**細川 隆司 先生** 九州歯科大学口腔再建リハビリテーション学分野  
附属病院口腔インプラントセンター

### 次世代多層ディスクはフルジルコニア レストレーションの限界を打ち破れるか？

最近の補綴歯科治療では、CAD/CAMの普及により、チタンやジルコニアのディスクからのフレームの作製（従来の鋳造メタルフレームの代替）、あるいはジルコニアやニケイ酸リチウムを用いたフル（モノリシック）セラミッククラウン・ブリッジ等が使用されるようになってきているが、どのような症例にどの材料を用いるべきかの明確な基準はなく、それぞれの特性を理解して選択していくことが必要である。

実は、当然のことではあるが、デジタル技工の優位性が最も発揮できるのは、歯冠色材料（主にジルコニア）のディスクから製作されるモノリシックな補綴装置である。しかし、単色のジルコニアディスクから削り出されるモノリシッククラウンの審美性には当然ながら限界があり、高度な審美性が求められる上顎前歯部などでは、フレームのみをジルコニアで製作し、昔ながらのアナログ技工によるポーセレンの多層レイヤリングが必須と考えられてきた。ところが、近年、マルチレイヤード（多層）ディスクの開発が進み、複数のメーカーから多層構造のディスクが開発され、臨床に用いられるようになってきた。とくに、次世代多層テクノロジーである4層以上の構造を持つジルコニアディスクと、新たなステイニング技法や、ラスター（luster）ポーセレンと呼ばれる限局的レイヤリング技法により、従来のジルコニアフレームへのポーセレンの多層レイヤリングと同等か、場合によってはそれ以上の審美性を確保できるようになってきている。もしそうであれば、次世代多層ジルコニアディスクを用いたモノリシックジルコニアクラウン・ブリッジは、デジタル化のあらゆる恩恵を受けるため、今後、臨床での使用頻度が劇的に増加していく可能性がある。

本ランチョンセミナーでは、次世代多層ディスク開発によってもたらされたフル（モノリシック）ジルコニアクラウン・ブリッジの臨床におけるブレイクスルーの本質や、新たな時代に入りつつあるデジタル化の流れについて情報提供させて頂き、未来への展望を共有したいと考えている。

**崎田 竜仁 先生** 株式会社CARESソリューションセンター

### 新素材サクラジルコニアの特徴

今回、ストロマンセンターのジルコニアラインナップの中から(株)クラレノリタケ製ジルコニアMLとジルコニアUTMLの物質の解析と特徴及びストロマンより発売される新素材サクラジルコニアを紹介したいと思います。

デジタル技工の普及とともにジルコニア素材も多くラインナップされている中で症例に応じたジルコニアの選択や物性の判断基準などオーダーを行う際の参考にしていただければと思います。

又、新素材サクラジルコニアディスクの特徴や適応症例も紹介したいと思います。

日時

2019年  
**5月12日(日)**  
12:20-13:00

会場

**第一会場**  
(1階 大ホールA)

※ 本大会ランチョンセミナーは整理券制です。